



個人研究主題

グローバル社会に生きてはたらく言葉の力を育む国語科授業の実践
—国際バカロレアの授業作りとアブダクションに着目した探究的な学び—

井上 哲志

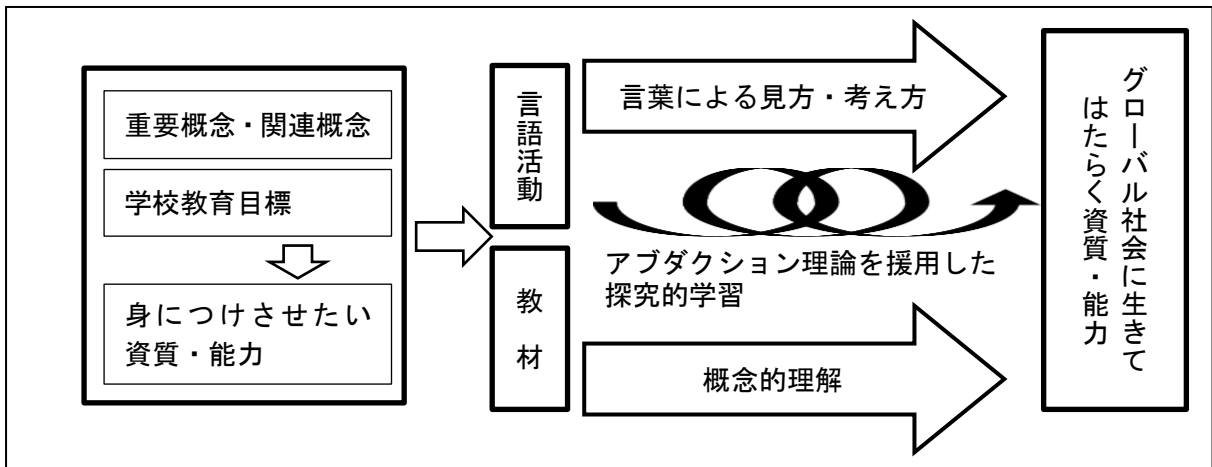
研究の要旨

昨年度、「探究的学習を通じた、グローバル社会に生きてはたらく力の育成」を主題として研究に取り組むにあたり、学校教育目標をベースに、生徒に身につけさせたい資質・能力を職員で検討した。併せて、各教科においてはそれに資する学習指導を探った。具体的には、学習指導において「重要概念」や「関連概念」を整理し、それらをもとにユニットプランをたてる国際バカロレアの授業づくりを参考に、授業改善に取り組んだ。これまで、言語活動例と教材との関連から授業計画を立ててきたが、身につけさせたい資質・能力に注目して、教材や言語活動を選ぶことで、生徒が学習内容を概念的に理解できることを目標とした指導計画を立てた。

探究的に学ばせることの目的を、主体的に学び、かつ教科横断的に生きてはたらく国語の力を身につけるためとした場合、昨年度の実践では、生徒の大部分がその目的を達成したとはいいがたかった。しかし、「探究のテーマ設定の工夫」、「学習過程の見える化」、「学習課題を生徒が決めないまでも、話し合わせること」など、私たちが今まで積み重ねてきたことを丁寧に授業に組み込んでいくことで、探究的な学習の効果がさらに明確に見えてくるだろうと考えている。

そこで、本年度の研究では、国際バカロレアの授業づくりを参考にした授業改善に加え、生徒が「問い」や「仮説」を立て、それを検証していくような過程を経て生徒が学習を深めていくような単元を構築することで、授業を改善したいと考える。「問い」や「仮説」を立てるために、アブダクションの理論を援用し、生徒の仮説思考力を育て、主体的な学びと教科横断的に生きてはたらく国語の力の育成を実現させたい。

■キーワード アブダクション、探究的学習、概念的知識、グローバル社会、国際バカロレア



研究の概念図



国語科学習指導案

令和3(2021)年4月14日(水) 第校時
第2学年 組 授業者 教諭 井上 哲志

1. 単元名

「討論会を通して考えを深めよう」

2. 単元設定の理由

『学習指導要領「総則」』では、これから迎える時代をふまえて学校教育で取り組むべきことが以下のように述べられている。

グローバル化の進展や技術革新、社会構造の急速且つ大きな変化により、予測が困難な時代を迎え、急速な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国においては、今の子どもたち社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代を迎えているであろう。そのような時代にあつて、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められる。

また、『学習指導要領解説「国語編」』の「第3章 各学年の内容」に示されている第3学年の内容から〔思考力、判断力、表現力等〕のうち、「話すこと・聞くこと」においては、言語活動例(イ)として、「互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動」が挙げられ、その活動を通して、「それぞれがもっている情報や考えの違いを調整しながら話し合うことや、互いの意見の部分的な内容を取り上げて大勢が納得できる結論を導き出したり、多様な考えを認めつつ互いが合意できる点を見いだしたりする」ことを指導することが示されている。

そこで、本単元では、あるテーマについて、自分たちの考えをすり合わせて合意形成しながら論を構築したり、自分の考えと討論者の考えとを比較しながら聞いたりすることを通して、テーマについての考えを深めていくことのできる討論会に取り組ませたいと考えた。

また、話すこと・聞くことの学習においては、話すことと聞くことが一体的に行われる活動を通して、その指導も同時的・一体的に行うことが効果的なのではないかと考える。そのため、討論者・聴衆が活動の過程において話す立場と聞く立場が随時入れ替わる討論の形式を採用した。

昨年度は休校の影響もあり、「話すこと・聞くこと」の単元を構築し、体系的に学習させることができなかった。授業においては日常的に交流を通じた学習に取り組ませているが、単に折り重なった経験では、資質・能力とはならないだろうと考える。教科の授業や総合学習での意見発表や質疑応答の場面を想起させ、振り返らせることで、「話すこと・聞くこと」に関わる個々の課題と向き合わせながら学習に取り組ませたい。

生徒の永続的理解につなぐために、単元のゴールを「自分の意見は何に影響されているのか」もしくは「自分の意見は何によって形作られているか」という概念的な「問い」に自分なりの考えを持つことを設定したい。

指導にあたっては、問いから仮説を立て、検証するという探究的な学習過程で取り組ませるが、とりわけ本単元においては、仮説をどのように検証すればよいのか、その方法を探らせない。検証方法を考案するときには、討論会で身に付く力は何か、何のために討論会を行うのかという、資質・能力や目的を意識する必要がある。これらのことを認知することが、「問い」を立てるには必要なのではないかと考えているからである。

3. 単元の学習目標

討論を通じて、情報や考えの違いを調整しながら話し合うことや、互いの意見の部分的な内容を取り上げて大勢が納得できる結論を導き出したり、多様な考えを認めつつ互いが合意できる点を見いだしたりすることができる。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①情報の信頼性を理解し使うことができている。 ②具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができている。	③自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。	④粘り強く表現を工夫し、学習の見通しを持って討論の学習に取り組もうとしている。

5. 単元の学習計画 (全8時間)

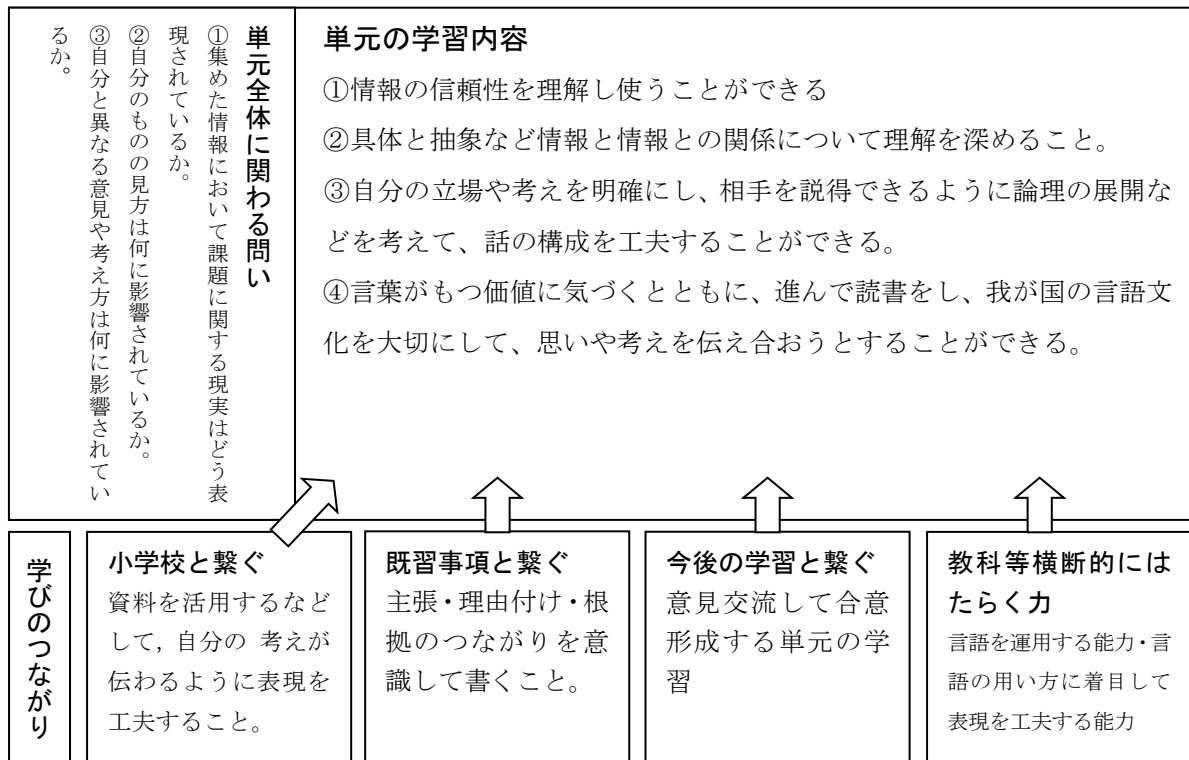
節	時程	学習活動	評価の観点		
			知	思	主
1次	第1時	学習テーマをイメージする。			◎
	第2時	討論会を通して何を学習するのかを明確にするために、「問い」・「仮説」・「検証方法」を探る。	◎		◎
2次	第3時 第4時 第5時	討論会に向けて、情報を収集・整理して自分たちのグループの発表内容を作る。(生徒が学習計画を立て、それに沿って活動する。)	◎	◎	◎
3次	第6時	討論会①			
	第7時	討論会②		◎	◎
	第8時	学習を振り返る。			

6 単元構想図

学校教育目標	グローバル社会に生きてはたらく力		
1 他人の人格を尊重し、連携協力し合える人間に	多様性を尊重する	柔軟な見方・考え方	協調・協働する力
2 創造性・知性と正しい判断力をもつ人間に	幅広く教養を身につけようとする	多角的な見方・考え方	論理的に発信する力
3 自然と文化を愛する心豊かな人間に	国や郷土を愛する	国や郷土の文化や自然を探究する力	魅力を発見する力
4 苦難を克服し、自ら開拓しうるたくましい人間に	粘り強く取り組む態度	情報を収集・整理する力	課題発見・解決力
5 国際理解を立ち、国と郷土を築く人間に	自分事として物事をとらえる	地球規模で物事を見る	新しい価値を創出する力

★どのような手立て・指導上の工夫で迫るか

一つのテーマについて、三つのグループがそれぞれの立場から意見を述べ合い、討論する学習活動に取り組む。他のグループよりも優位に立つためには、論理的に発信する力が必要とされる。また、聴衆は討論を聞きながら多様な意見に触れることができるので、考えが広がることが期待できる。討論の目的を、相手を論破することだけではなく、討論者・聴衆が互いの意見を傾聴することで、考えを深めることにあるという指導を通して、多様性を尊重する態度の育成にもつなげたい。



8. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

目標：②具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。

探究的学習活動の見どころ：「問い」から仮説を立てること。仮説の検証方法を交流し、磨くこと。

9. 本時の学習過程

	学習内容・活動	○指導と★その意図 ◆評価
導入	1. 隣り合わせのペア同士で前時の学習活動・学習内容・身に付いたり発揮した言葉の力を交流し、振り返る。	○振り返りシートに沿って交流させる。 ★前時の学習内容を想起し、確認し合うことで、本時の学習活動にスムーズに取り組みさせるため。また、前時に学習した内容を足がかりに本時の学習課題に取り組む必要があるため。 ◆規準④粘り強く表現を工夫し、学習の見通しを持って討論の学習に取り組もうとしている。(観察・ワークシート)
学習課題 討論の「目的」に注目して問いを立てよう		
展開	2. 「討論を通して何が学べそうか」「なぜ討論で学ぶのか」、意見をまとめる。 3. 討論の様子を動画で視聴する。 4. 問いを立てる。 5. 立てた「問い」を探究するための仮説を立てる。 6. 仮説を「討論会」の場面において、どのように検証するのか、その方法を探る。 7. ステップチャートに「問い」・「仮説」・「検証方法」をまとめる。	○二つの発問に対して意見をノートにまとめさせる。 生徒の意見から、討論で学ぶ目的をつかませる。 ★「目的」に注目することで生徒が「問い」を立てやすくなるのではないかと考えているため。 ○デジタル教科書より、討論の様子をイメージするために動画を視聴させる。 ★「問い」の検証方法を探る際に、「討論」の様子を具体的にイメージできた方が取り組みやすいと予想するため。 ○「問い」を立てさせる。立てた「問い」をステップチャートに書き込ませ、交流、発表させる。 ★「討論」を通して何を学ぼうとしているのかを明確に、また、自覚するために「問い」を立てさせる。 ○「問い」に基づいた仮説を立てさせる。 ★立てた「問い」の答えを探るために必要な活動であるととらえている。 ○「討論会」の様子を具体的にイメージし、検証方法を探る。 ★抽象的な思考操作で立てた「問い」が具体的な活動の中で検証が可能かどうかを探ることは、「問い」を問い直す意図も含んでいる。 ○ステップチャートに「問い」・「仮説」・「検証方法」をまとめさせる。 ★授業後に回収し、「問い」の適切さを検討するため。 ◆規準②具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(ステップチャート)
まとめ	8. 本時の学習を振り返る。	○振り返りを発表させる。 ★学習活動という具体を学習内容という抽象に置き換えさせ、学習内容の定着を図る。また、本時の学習活動がどのような「学び」として生徒に受け止められているのかを確認し、次時の授業の組み立てや内容に修正を加えるため。

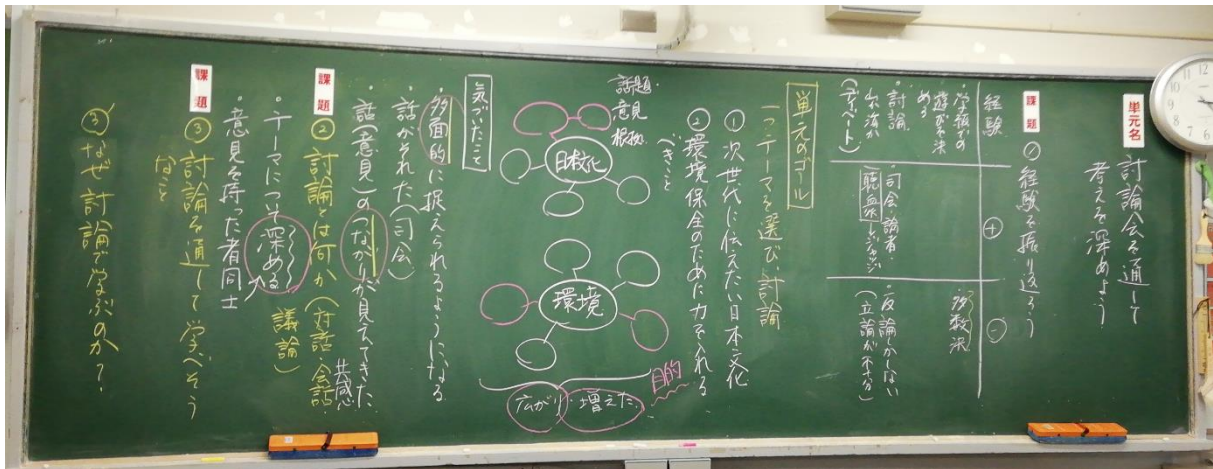
10. ルーブリック

	A	B	C	D
思考・判断・表現	主張や論点を明確に、テーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容を過不足なく、論の展開や構成にも工夫を凝らしながら伝えているので、聞き手を巻き込んだ発表になっている。	主張や論点を明確に、テーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめ、分かりやすく伝えているので、聞き手の大部分が興味を持って聞いている。	主張や論点に関連が認められるが、明確でなく、論の展開や構成に工夫の余地がある形で提示しているので、聞き手の集中力も途切れがちになっている。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示しているので、聞き手ははらはらしながら聞いている。
知識・技能	情報が信頼できるかどうか、著者・出版者・出版年・データの調査元のうち、三つを確認しており、また、複数の調査方法で得た情報を根拠として意見を述べている。	情報が信頼できるかどうか、著者・出版者・出版年・データの調査元のうち二つを確認して、複数の情報を根拠として意見を述べている。	情報が信頼できるかどうか、著者・出版者・出版年・データの調査元のうち一つを確認して、その情報を根拠として意見を述べている。	情報が信頼できるかどうか、考えられなかった。

11. 参考資料

板書の記録

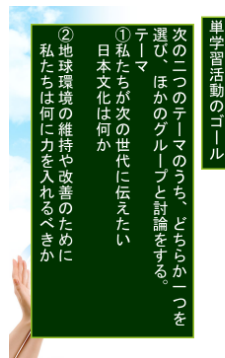
第1時



パワーポイントのスライド



①



②

第一時 めあて 学習テーマをイメージする

課題① 討論とは何か。対話・会話・議論と対比してとらえよう。

①精選版 日本国語大辞典
 ②世界大百科事典から「討論」の言及
 ③「多義決」より
 ……合議体より広く集団ないし多数人の集合における意思形成の方法として多数決がとられるとき、超絶的な権威が存在せず、それぞれの主張が確信的に対等であるという点を原理上前提としている。その際、多数決に先行する討論によって、さまざまな主張が互いに説得し、説得される過程を経たうえで多数意思が形成されることにより、より正しい解決に接近できるはずだ」という期待が維持されているところでは多数決は円滑に機能する。そのためには互いに説得し説得される可能性、すなわち、考え方の互換性が存在していなければならない。……

対話
 ①ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説
 広義には二人以上の人間の思考の交流をいい、広く文学的表現法として用いられるが、特に哲学では問答によって哲学的主題を追究していく形式。
 ②デジタル大辞泉の解説
 「を」(心)向かい合うこと。話し合うこと。また、その語。「市長が住民と対話する」

議論
 ①デジタル大辞泉の解説
 「を」(心)互いの意見を述べ、論じ合うこと。また、その内容。「議論を戦わす」「議論を尽くす」「仲間と議論する」
 ②精選版 日本国語大辞典の解説
 「を」(心)互いの意見を述べ、論じ合うこと。また、その内容。「議論を戦わす」
 ③「を」(心)互いの意見を述べ、論じ合うこと。また、その内容。「議論を戦わす」
 ④「を」(心)互いの意見を述べ、論じ合うこと。また、その内容。「議論を戦わす」

1 互いに、自己の意見を述べ、論じ合うこと。意見を戦わせること。また、その意見。
 2 ある事柄を問題として、論ずること。

3

第一時 めあて 学習テーマをイメージする

課題② 討論に取り組みにあたり、今までの学習を振り返ろう。
 意見の発表や質疑応答のある言語活動うまくなせること・そでないこと

課題③ 討論を通して何が学べそうだと考えるか。

+

-

4

第二時 めあて 学習課題をつかむ

課題④ 学習課題をふまえて「問い」を立てよう。ステップチャート

問い
 仮説
 検証方法

課題⑤ 「問い」をもとに、仮説を立てよう。注意…「仮説」の検証は、「討論会」を通して行います。

5

第二時 めあて 学習課題をつかむ

課題⑥ 仮説の検証方法をとらえよう
 討論会の何をどう見れば検証できるか、アイディアを出し合おう！

課題⑦ 班で討論するテーマを決めよう

二つのテーマで意見を述べるなら、何を述べたいか、イメージマップで考えを広げ、それを交流しながらテーマを決めます。

第1円 テーマ
 第2円 意見
 第3円 理由
 第4円 事実

6